第 370 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

【生きる力を引き出す】 ～ 寄り添い方 ～

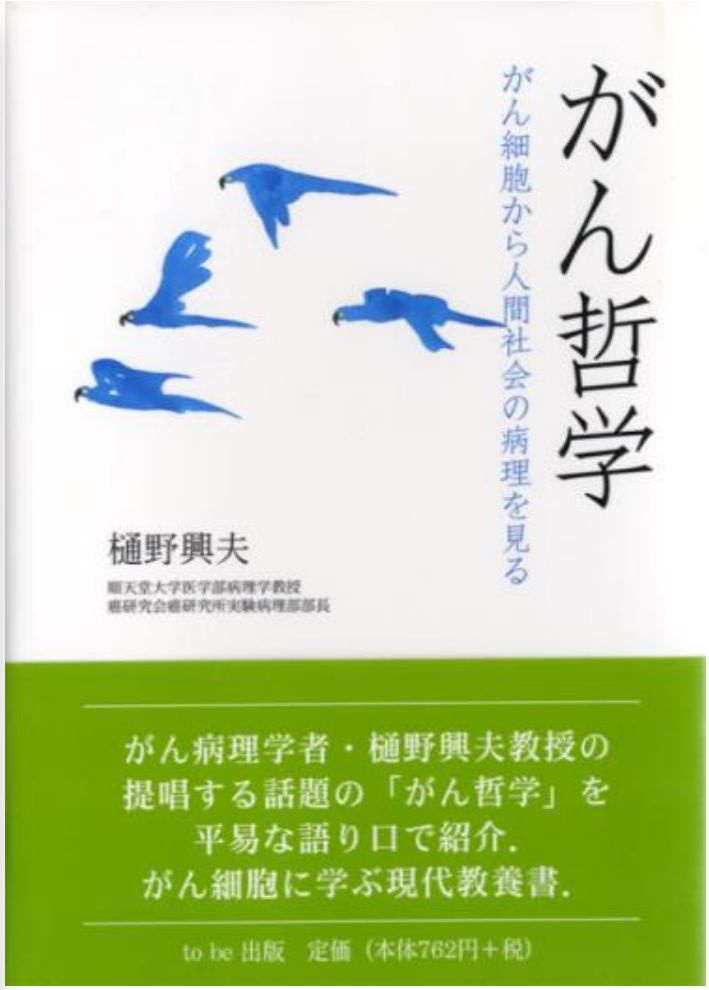
2025 年 12 月 11 日 埼玉医科大学総合医療センターの ブレストケア科で 2016 年 11 月に開設された『がん哲学外来』に赴いた。 大変充実した貴重な個人面談の時となった。 【生きる力を引き出す 寄り添い方】(2018 年青春出版社発行)
(画像)の実践である。想えば、今は亡き ブレストケア科教授 矢形寛先生（2019 年 9 月 11 日 満 55 歳で、逝去）が、2016 年 11 月に『小江戸がん哲学外来』を開設された。 まさに『火焔のうちにある 燃料の如く 自ら燃えよ！』の精神である。来年は 10 周年記念である。継続の大切さを実感する日々である。

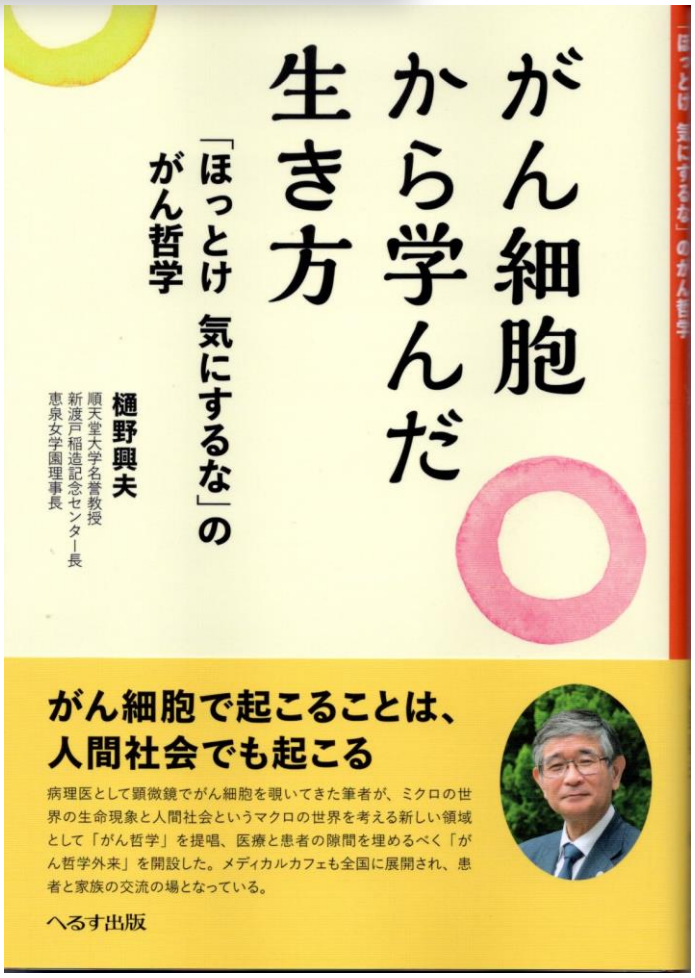
12 月 12 日は 病理組織診断業務である。【『病理学』 は 『形態』 、 『起源』、 『進展』などを追求する学問分野である。】＆【病理組織診断は、『風貌を診て、心まで読む ＝ 人生の根幹を追求する』でもある。 顕微鏡観察は、『がん哲学』(2004 年 to be 出版発行)(画像) ＆ 『がん細胞から学んだ生き方』(2021 年 へるす出版発行)で 病理学者が『がん哲学外来』を創設出来た原点である。】

12 月 13 日は、早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座『ジャンル 人間の探求』である。
【『がん哲学』とは 生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。 病理学者として 科学としての癌学には 哲学的な考え方を取り入れていく領域があるとの立場に立ち『がん哲学』を提唱しています。 日本人の半分が がんになる時代、好むと好まざるとにかかわらず 多くの人ががんと一緒に生きる方法を見つけなければなりません。 授業では テキストの読みあわせと解説をしつつ 受講者との対話を中心に講義をすすめます。 がんと ともに生きる患者さん、家族や身近に患者がいる人、医療従事者等患者に寄りそいたいと思う方すべてが対象です。】と紹介されている。

テキストは『新渡戸稲造 壁を破る言葉』(2023 年 三笠書房発行）を使用する。 今回は【新渡戸稲造の精神から何を学ぶか？】の箇所を受講者に音読して頂き、質問を受けながら進める。

大切な人が がんになったとき…
生きる力を引き出す
寄り添い方
樋野興夫
順天堂大学 医学部／国際教養学部 教授
がん哲学外来 理事長
笑顔が生まれる
接し方とは
「支える」と「寄り添う」を分けるもの
「顔立ち」と「顔つき」の違いとは
「傷つける会話」と「癒す対話」…
3,000人以上のがん患者・家族と個人面談をつづけてきた
著者が贈る「がん哲学外来」10年の知恵
青春新書 PLAYBOOKS
青春出版社


がん哲学
がん細胞から人間社会の病理を見る
樋野興夫
順天堂大学医学部病理学教授
癌研究会癌研究所実験病理部部長
がん病理学者・樋野興夫教授の
提唱する話題の「がん哲学」を
平易な語り口で紹介.
がん細胞に学ぶ現代教養書.
to be 出版　定価（本体762円＋税）


がん細胞から学んだ生き方
「ほっとけ 気にするな」のがん哲学
樋野興夫
順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
がん細胞で起こることは、
人間社会でも起こる
病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。
へるす出版